

氏名	兼宗 美幸	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学、生涯学習学				
学位	修士(学術)				
学歴	1986年千葉大学看護学部看護学科、2000年文教大学大学院人間科学科生涯学習学専攻				
経歴	1989年埼玉県立衛生短期大学看護学科助手、1996年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授、				
所属学会(役職)	日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本母性看護学会、日本看護学教育学会、日本更年期と加齢のヘルスケア学会、日本看護技術学会				

### 【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
(2) 論文					
1	急性期病棟看護師における学生指導の特徴	共著	日本看護学会論文集: 急性期看護46:P.297-300	鈴木洋子、兼宗美幸	2016.03
(3) 学会発表					
1	Trends and issues in nursing care for infants that incorporate massage in Japan: Literature review	共著	第2回国際ケアリング学会学術集会	Miyuki Kanemune , Megumi Sakamoto	2015.11
2	Trends and issues in nursing care that incorporates acupressure and massage: Literature review	共著	第2回国際ケアリング学会学術集会	Megumi Sakamoto、 Miyuki Kanemune ,	2015.11
3	更年期にある看護職の健康状態と保健行動について	単著	第14回更年期と加齢のヘルスケア学会・第3回日本サプリメント学会学術集会	兼宗 美幸	2015.09
4	保健医療福祉系学生の食生活の現状と課題 栄養素と食物摂取状況	共著	第53回全国大学保健管理研究集会	坂本めぐみ、鈴木幸子、兼宗美幸、佐藤雄二	2015.08
5	保健医療福祉系学生の食生活の現状と課題 健康生活習慣と食生活	共著	第53回全国大学保健管理研究集会	鈴木幸子、坂本めぐみ、兼宗美幸、佐藤雄二	2015.08
6	更年期にある女性看護職の保健行動への個別的な支援の検討 ライフスタイルと食物摂取頻度の調査から	単著	第17回日本母性看護学会学術集会	兼宗美幸	2015.06
(4) その他					
1	学食、地域住民との交流を通じて学生と取り組む食生活改善	共著	第17回埼玉県健康福祉研究発表会	鈴木幸子、兼宗美幸、佐藤雄二、坂本めぐみ	2016.01
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	該当なし				
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	母性看護学Ⅱ(女性と家族)	2015.11	内容と担当者を整理し、具体的で現状に即した女性と家族へのリプロダクティブヘルスに関わる看護の講義を行った。		
2	遺伝と看護	2015.10.	紙上事例を修正し、目的目標を到達しやすいスケジュールに調整した。		
3	母性看護学Ⅰ	2015.12.	DVIに関して看護職による支援を中心に事例を用いて講義した。学生にとって身近な内容の可能性を踏まえて慎重に行った。		
4	リプロダクティブヘルスと看護	2016.01.	性暴力に関する看護職による支援を講義した。自主的なテーマ設定によるGWと発表は学生が主体的に活動できるよう支援した。		

(2) 演習				
1	母性看護学Ⅲ	2015.12-2016.01	産褥期・新生児期の紙上事例の看護過程展開の演習において、理解を深められるよう個別およびグループ別に指導を行った。	
2	周産期のケア	2016.01.	「産褥期のアセスメントとケア」「助産師の職業倫理と生命倫理」の講義及び「妊婦健康診察/保健相談」の演習を担当。学習目標に沿って個人およびグループの学習を支援した。	
3	分娩期のケア	2015.04-08	「演習:産痛緩和」「演習:第一期の看護」「助産過程」「分娩介助技術」を担当。臨床を踏まえて、学生個々の能力を伸長するよう支援した。	
4	卒業研究	2015.04-2016.01	学部生4名を担当し、希望する研究テーマに関する活動を支援した。	
(3) 実習				
1	母性看護学実習	2015.05-07	3年生を対象に女性と家族の生涯を通じた健康の視点を持つよう、産科病棟実習およびカンファレンスなどでかかわった。	
2	総合実習(母性看護学領域)	2015.07.	4年生を対象に女性と家族の妊娠分娩産褥期と健康の視点を深められるよう、産科外来実習およびカンファレンスなどでかかわった。	
3	IPW実習	2015.10.	霞ヶ関南病院の教員FTとして学生6名が「連携と統合」を体験を通して理解できるよう施設FTと調整して支援した。	
4	助産学実習Ⅰ	2015.05-06.	学習目標を達成できるよう施設職員と調整を重ね、事前指導、カンファレンス、学内カンファレンス等で個別に関わった。	
5	助産学実習Ⅱ	2015.08-10.	学生の個別性を踏まえ、病院指導者の協力を得ながら関わった。	
(4) 論文指導				
1	該当なし			
(5) その他				
1	専門職講座「産科看護職のための学習会」	2015.04.	卒後教育の一環として「地域における母子保健活動」の講演を企画し、実習施設の協力により実施し多数の参加者を得た。	
2	専門職講座「臨床家のための研究セミナー」	2015.06.	卒後教育の一環として実習施設の看護職を対象に看護研究についてゼミ形式で講座を実施した。主体的に学ぶ場として好評を得た。	
3	一般講座「女性のための健康講座」	2015.09.	住民への健康教育の一環として、更年期女性の健康講座を実施した。更年期の健康について簡潔に講義し、実技演習に繋げた。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	母性看護学実習のねらいと展開	2015.06.
2	看護実践専門分野	埼玉県看護協会	思春期の性	2016.02.
3	平成27年度保健事業	草加市保健センター	両親学級「分娩の経過について」	2016.03
4	平成27年度女性のための健康セミナー	越谷市保健センター	更年期とうまく付き合おう-未来予想図を描こう	2016.02
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	越谷市男女共同参画推進委員会	会長		2015.06.～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)				
1	助産師・保健師関連科目履修者選考委員会 委員			
2	看護学科カリキュラム運営検討会 委員			
3	看護学科総務委員会 委員			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			